助成事業名　**各務原狂言囃子の会事業**　（スタート助成１年目：船出の会）

事業概要　村国座で狂言と囃子の公演を行うことで、地域に根差す伝統文化の起源となる能や狂言への関心を喚起し、伝統文化を引き継ぐ次世代を育む。

実施内容

１．広報活動
チラシ 6,500 枚を制作した。（公共施設等での配布・関係先への配布　計 3,400 枚、新聞折り込み計 3,100 枚）

２．小鼓体験ワークショップ（中山道鵜沼宿脇本陣）
開催日：4/6・4/13
参加者：2 日間で 31 人

歴史愛好家が訪れる中山道鵜沼宿で小鼓体験のワークショップを開催した。小鼓の胴の制作年代による違いや、能楽の歴史の話も交えて来場者に伝えた。

３．各務原狂言囃子の会（村国座）
開催日：4/27
参加者：大人 177 人、学生 8 人

狂言「棒縛」・「金岡」、素囃子「獅子」の公演を提供。
演目を身近に感じてもらうとともに、来場者同士が交流しやすいよう、会場外にて蔵元・林本店のお酒「百十郎」の振る舞い（演目「棒縛」がお酒にちなむものであるため）や、キッチンカーでのドリンク・クレープの販売も行った。

４．小鼓体験講座（川島ライフデザインセンター）
開催日：4/25・5/2・5/16・5/30・6/6・6/20・7/18
参加者：各 11 人

事業をきっかけに能楽に興味を持った方々が、今後も継続的に能楽に関わっていただけるよう働きかけた。（事業外で実施）

-＊

事業成果

●来場者の 1/3 が狂言舞台を初めて観た方、うち８人は学生だった。
●地元の村国座での公演がきっかけで観覧したという声があった。
●小鼓体験をきっかけに狂言に興味を持った人がいた。
●アンケートで「初めて狂言を見ました。今まで知らずにいた事が残念なくらいです。」「初心者でも楽しめる演目になっていてとても良かったです。」の声があった。
●来場者アンケートは 185 人中 79 人が回答。
「とても良かった（86%）」、「良かった(13%)」の回答が 99%。79 人全員が「狂言や囃子を身近に感じた」と回答した。
●再び観覧したいか問う質問で「見たい（92%）」、「やや見たい（8%）」。

これまで興味がなかった層が伝統文化に触れる機会を提供できた。

反省点…「お酒などのサービスが事前にわかるともっと良い」「入場時に資料を自分で取る必要があり、うまく取れずに混雑した。手渡しされると良かった」「もう少し早い時間に始めて欲しい」という声があり、次回開催時に改善を試みる。

収支報告　事業費総額　926,322 円　/　助成金交付確定額　100,000 円

助成経費内容　出演料、交通費、楽曲使用料、演目使用備品、会場費、チラシ印刷代、チラシ折り込み代、事務消耗品